

## 学校関係者評価報告書

佐子委員長が議長となり、明治東洋医学院専門学校 令和4年度自己点検・自己評価報告書に基づき、基準1から基準10の各項目を確認して、次のとおり評価した。

評価の結果、目標管理制度について、教員個々の目標が学校の方針に沿っているか再度確認が必要であること。また、授業評価アンケートの回収率を100%にすることを提言した。

(評価委員)

佐子委員長 (佐子鍼灸整骨院・卒業生)

北川委員 (公益社団法人大阪府鍼灸師会 理事・大阪府柔道整復師柔道連盟・卒業生)

上山委員 (大阪高等学校)、村上委員 (関西大学北陽高等学校)、酒井委員 (さかい鍼灸院・卒業生)

竹藤委員 (鍼灸治療院ひろ・卒業生)、田中委員 (デイハートたなか・卒業生)

(評価区分)

- 5 極めて適切に行われている      4 適切に行われている      3 普通  
2 適切にややかける                  1 適切でない                  NA あてはまらない

評価項目		評価	
<b>基準1 教育理念・目的・育成人材像等</b>			
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	建学の理念、建学の心が定められており、これらに基づき、学則を含め、学科毎にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定め、ホームページ等で公表している。	4
1-2	学校の特色はなにか	ICTを活用した教育、多様な実習教育、キャリアビジョン科目等により、社会の要請に対応できる医療人を養成している。 また、2025年に100周年を迎える歴史があり、多数の卒業生を輩出し、活発な同窓会活動を行い、卒後研修（生涯教育）の充実に努めている。 医療資格+αの資格取得、国家試験合格を支援する個別指導体制による全国平均以上の合格率、就職率100%、Wライセンスサポート制度を特色としている。	4
1-3	学校の将来構想を抱いているか	定員の充足を図り、安定した学校運営が喫緊の課題である。 将来構想に向けて、学院全体として中期的な計画を策定しており、学校部門においては、目標達成に向けて学生募集強化、教育改革に努めている。	4

基準2 学校運営			
2-4	運営方針は定められているか	役員会で明確に定められている。	5
2-5	事業計画は定められているか	役員会で事業計画の承認を経て、教職員に周知されている。	5
2-6	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学院「組織及び運営に関する規則」に基づき作成された組織図により、指示命令系統が明確になっており、効率的な運営に取り組んでいる。	4
2-7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	学院「就業規則」に基づき、人事採用試験を実施しており、「職員給与規程」により賃金支給に関する制度が整備されている。また、教職員が個々に目標を設定した「目標管理シート」に基づき、人事考課に取り組んでいる。	4
2-8	意思決定システムは確立されているか	学院「寄附行為」、学校「管理運営会議規程」「専門学校管理組織図」等に基づき、意思決定システムは確立されている。	5
2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学校組織の情報教育推進室が情報に関する業務を行っている。また、全教職員にパソコンを配備し、学内LAN構築、Wi-Fi環境の整備により、情報共有や業務効率化が図られている。また、全学生にiPadを配布し、ICTを活用した情報発信を行っている。	5
基準3 教育活動			
3-10	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	学科ごとに3つのポリシーを定め、教育目標、育成人材像を方向付けている。教育課程編成委員会、治療所訪問及び就職相談会の実施など、企業との連携強化に努め、開業または勤務鍼灸師、柔道整復師による実技教育、臨床実習を実施している。	4
3-11	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	3年間の段階的教育により、外部施設での臨床実習を通じ、業界の人材ニーズレベルに合わせた知識、技術、人間性の修得に向けて取り組んでいる。	4
3-12	カリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムは常に問題点を整理して、改善に取り組み、完成年度を迎える年度は、教育課程編成委員会の意見も踏まえて新カリキュラムの構築を検討している。	4

3-13	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目は、科目間の連携性を意識して積み上げ方式で構築されており、カリキュラムマップで整理されている。	4
3-14	授業評価の実施・評価体制は機能しているか	全授業科目でWEBにて実施している授業評価アンケートは、専任教員科目は回収率が向上したが、非常勤講師科目の回収率が低いことに対し、専任教員が実施するなど改善する必要がある。 また、令和4年度から試行的に教員間による授業見学を実施し、他の教員の教育方法を参考にするとともに、見学者は改善策を提案して各教員にフィードバックするなど、授業改善に努めている。	3
3-15	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	養成施設規則に基づく教員数が確保できている。FD研修会の実施、教員研修会、学会等への参加により、教員の資質向上に努めている。 学科教員会議を開催して教育効果の向上を図り、非常勤講師懇談会を実施して情報を共有するなど、非常勤を含む教員間の協業に努めている。	4
3-16	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	GPA制度を導入し、各科目の成績評価は60点以上をもって単位認定する旨を学則に定め、学生便覧で周知するとともに、シラバスを配布して明確にしている。	5
3-17	資格取得の指導体制はあるか	成績不良者を対象としたフォローアップセミナーや個別指導を行う指導体制がある。 また、更なる知識・技術を求める学生にはスキルアップセミナーを開講しており、国家試験合格率は全国平均以上を維持できている。	5
<b>基準4 教育成果</b>			
4-18	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職に対する定期的なアンケート及び就職相談会を実施し、就職に対する意識を高め、就職率の向上に取り組んでおり、就職希望の学生の就職率は100%であった。 また、過去の就職先を整理し、教員による就職先への訪問が実施されている。	5

4-19	資格取得率の向上が図られているか	鍼灸学科においては、はり師93.2%、きゅう師93.2%、柔整学科においては85.0%の実績となり、全国平均を大幅に上回り、資格取得率の向上が図られている。	5
4-20	退学率の低減が図られているか	アドバイザーミーティングを定期的に行い、長期欠席者の早期発見、成績不良者に対する個別指導に努めている。また、休退学の可能性のある学生がいる場合は、学籍異動経緯書を作成して対応を検討するなど、早期対応に取り組んでいるが、目標の3%は僅かに達成できず、3.6%となった。	4
4-21	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握に努めているか	一部の卒業生は「夢を叶えた卒業生たち」としてホームページで現在の活躍を紹介するとともに、業界団体の役員名簿等で把握している。 卒業後、医療関係職以外の職に就いた者の動向把握が困難となっている。	4
<b>基準 5 学生支援</b>			
5-22	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	キャリア支援室を整備し、学生課とクラスアドバイザーが連携して学生対応を行っている。また、新型コロナ対策を講じた対面型の就職相談会を実施するなど、就職及び進学に対する指導が機能している。	4
5-23	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	クラスアドバイザー及び事務局担当職員が常時学生相談に応じる体制が整っている。学生相談室に有資格者のカウンセラーを配置している。※毎週金曜日13時～18時	4
5-24	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	高等教育の修学支援新制度の対象機関として認定を受けている。学納金の納付については、分納、延納制度があり、学業に専念できるように対応している。	5
5-25	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	附属治療所を開設しており、医療資格を持った専任教員による健康管理体制が整備されている。 また、校地内に連携クリニックがあり、学生の健康診断が実施され、体調不良の際は速やかに受診できる体制が整っている。	5

5-26	課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動規則及び同好会活動規則が定められ、クラブ発足等の支援体制が整備されている。	4
5-27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮はないが、信頼のおける賃貸業者を紹介して対応している。校舎内には食堂があり、食に対する支援が行われている。	4
5-28	保護者と適切に連携しているか	例年、オリエンテーション時に保護者説明会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、入学式に保護者が参列できず実施できていないことから、WEBによる実施の検討も必要であった。	3
5-29	卒業生への支援体制はあるか	同窓会が組織化され、卒後研修会等が定期的に計画されており、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面及びWEBによるハイブリッド型の研修会を実施するなど、生涯学修を支援している。	5
<b>基準 6 教育環境</b>			
6-30	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	外部委託業者により、施設等は適切に管理されており、修繕が必要と報告を受けた設備等は早期対応に努めている。 また、コロナ禍において、検温器、パーテーション、消毒液が常時設置されている。	5
6-31	学外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	老健施設、スポーツ団体、医療機関等との連携を行い、外部施設での臨床実習教育が実施できる体制整備に努めている。しかしながら、インターンシップ実習については、1単位40時間を確保できる実習先が少なく、学生の履修実績がないことから、魅力ある実習先の確保が課題である。	4
6-32	防災に対する体制は整備されているか	外部委託業者による定期的な消防点検、機器点検等は実施されている。また、消防計画が策定され、コロナ禍において、密を避けるため教職員で消防訓練を実施している。	4

基準7 学生の募集と受け入れ			
7-33	学生募集活動は、適正に行われているか	定員充足に向け、毎月オープンキャンパスや平日学校説明会を開催し、媒体及びインターネット広報を中心として、適正な学生募集活動が行われているが、募集定員を満たしていない。	4
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果を国家試験合格率として捉え、公表している。また、ホームページ、パンフレット等において、就職実績、卒業生の活躍等を教育成果として公開している。	5
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	募集要項に基づき、入学試験を実施し、合否の判定については、入試管理会議を経て、適切かつ公正に実施されている。	5
7-36	学納金は妥当なものとなっているか	学納金は、教育負荷率を考慮した1単位あたりの授業料を講義、演習、実習別に算出しており、妥当なもの判断できる。	5
基準8 財務			
8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	学院の中期的な計画に基づき、財政基盤の安定に取り組み、帰属収支差額が赤字となっている年度が続いたが、令和4年度決算では黒字化した。	3
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算、収支計画は役員会で決定されており、有効かつ妥当なもので計画されている。	4
8-39	財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士のもと、会計監査が適正に行われ、ホームページで情報を公開している。	5
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか	学院として大学ホームページで公開する体制が整備され、学校ホームページからも確認することができ、必要な情報を公開している。	5
基準9 法令等の遵守			
9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	あはき、柔道整復師関連法規及び専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営がなされている。	5
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学院が定める個人情報保護方針に基づき、学校に委員会及び規程を設けて対応できている。また、個人情報の取扱いについては、教職員を含め周知徹底されている。	5

9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	授業評価アンケート及び卒業見込者に対する学校評価アンケート等により、自己点検・自己評価を実施している。教育に関しては、教育委員会等で問題点を検討し、科目担当者が改善に向けて努力しているが、改善項目の内容を正しく認識できていないこともあり、定期的な打ち合わせによる情報共有を行い、学校全体として取り組む必要がある。	3
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか	適正にホームページで公開されている。	5
<b>基準 10 社会貢献</b>			
10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	企業の健康講座等に教員を派遣するとともに、学校施設を開放して生涯研修等に取り組んでいる。 また、附属治療所を設置して地域住民に対し、健康維持増進に努めている。 更に、吹田市及び大阪市と「津波災害又は水害時における緊急一時避難施設としての使用に関する協定」が締結されている。	5